

令和4年度第1回日野市自殺総合対策推進委員会 要旨録

《開会》

- ・委員数17名中15名出席、半数以上の出席により会議成立
- ・会議の内容については、正確を期すため録音させていただく（UDトークも使用）
- ・議事録については、要旨録として公表させていただく。

《議題》

1. 日野市自殺総合対策推進基本計画（基本・重点）施策進捗状況

- ・事務局より令和3年度の進捗状況及び令和4年度取り組みについて説明
- ・質問、意見等なし

2. 日野市の自殺の実態について

- ・事務局より、日野市の自殺の実態、地域の自殺の特徴、地域の自殺の基礎資料について説明
〈質疑応答〉
- ・委員から自殺未遂者への対応についての質問があり、現状と今後の対応の必要性について意見交換が行われた。

委員：自殺未遂者に対して、具体的にどのような対応をしているのか。

委員：自殺未遂をしたかどうかは、本人の申告やご家族からの話がないと把握ができない。そのような話が診察の場で聞ければ、状態によって入院をすすめている。医療につながっていない人に対しては、どうやって未遂をしたことに気づいて他の社会的サービスに繋げるのか、どうしたらよいのかと考える。

事務局：相談者が自殺未遂したことが分かれば、医療へつなげるとか、経済的な支援をしている。窓口では相談者として伴走しながら支援をしている。現行の自殺対策計画では未遂者の支援に対応していないが、対策をとるといふ国の動きもあり、次期計画の中で具体的な対策になるのではないかと考えている。

委員：自殺未遂について、保健所での対応システムはないので作っていかないと繋がらないという課題がある。精神保健センターがあるので、相談状況により自殺を防ぐ役割はとっていけると思う。精神保健センターは、対応が難しい部分についてカバーするという役割も持っている。緊急事案や対応が難しい場合については連携可能であり、市町村が困ったときにもセンターに繋ぐことは出来る。

委員：遺族の心理的、生活的な支援を考えていければと考え、今年度ライフリンクとプロジェクトチームを立ち上げることにした。東京都の今年度の重点施策の中にも入っていたので、取り組まなければいけないと思っている。その中で、遺族に直後話を伺っていくうちに、未遂歴があるとかあったとか、どういう対応だったとかというような事がでてくるのではないかと気もしている。

事務局：自殺者は、何故か全国で男性が多く、女性が少ない時に、日野市は女性が多く、男性が少なかったり、全国で女性が増えてきたら、日野市は男性が増えたりとか、同じ流れで

はないと感じている。

委員長：自殺者は40代、50代の働き盛りの男性が多いのが気になる。昔よく言われたように高齢者あるいは生活困窮者の自殺とは少し意味が違ってきている。発想を変えていかないと自殺対策は中々追いついていかない。これからは少し発想を変えていく必要があるのではないか。もう一点は、同居している人の自殺が多い。よく世間で言うのは孤立しがちな人と言うが、家族がいて同居生活を送りながら孤立状態に仮にあるとすれば、ここに何か支援をしていく必要があるのではないか。

委員：民生委員の会長・副会長の会議で、虹友カフェという性的マイノリティの方々に対する支援事業について平和と人権課から説明を受けた。そして、135名の民生委員に話をしていこうということになった。LGBTで悩んでいる方の多くが自殺を考えている、自殺未遂をおこしているという事実があって、マイノリティであっても、そこまで焦点をあてるような施策を日野市でも取り扱ってきているということは、とても良いことだと感じた。

3. 委員の任期の満了及び改選について

- ・事務局から次期委員の選出方法について提案した。
- ・質問、意見等なく了承された。

4. 日野市自殺総合対策基本計画の改定の視点について

- ・事務局から次期委員が計画策定委員を兼務してもらうこと、見直される国の自殺対策大綱を参考に市の計画を改定していくことを説明

〈質疑応答〉

委員：日野市はわりと頑張っていて、自殺対策を積極的にやっている。日野市は自殺防止対策の実績を作ったらよい。この委員会が全国的に参考になるような取り組みを今度とも進めていけば良いと感じている。

委員長：委員会自体が市民からどう見られているか非常に大事な問題で、市民を代表して参加されている委員に、是非この委員会を今後も盛り上げていただきたい。

委員：企業の労働衛生という立場で日野自動車はこの会に参加させていただいているが、今の色々な状況の中で、他の事業者も含めて委員選定を検討していただければと思う。

委員：私が関わっている心に病を持っている方が、セーフティネットコールセンターに電話したら、話をよく聴いてもらえて、また電話していいと言われたと凄く喜んでた。

副委員長：新しい改定の方針も国からでているので、それも大事にしながら、さらにコロナ禍の2年間で社会が少しずつ変わってきている。コロナによって大きな影響を受け、回復が遅れたりしたところに問題が出てくると思う。そういったところは一つの大きな焦点になる。もう一つはプロファイリング。働けない、働かない無職の人のケアも勿論だが、働いている人のケア、追い詰められたときにどうしても働きすぎてしまう、働いて何とかしようと思ってしまうとか、働くことのストレスから過労・ストレス・上司との問題とかハラスメントも出てくる。そういったところにどう対応していくか、働く人のサポ

ートも凄く大事になると思う。

委員：3月に医師会で、身体診療科と精神科の連携事業として自殺について二人の医師に話をしていた。医師会の医師は、精神科と身体診療科の連携事業に関心が薄い、通常以上の参加があり、まだ決して十分とは言えないが、以前より取り組みが繋がったと思う。

委員：行政では、担当職員の異動があり、ようやく定着してきたことが一からということが結構ある。このような事があって、こういう対応をしたというものが蓄積していく事ができるように引継ぎを丁寧にして欲しい。

委員：自殺対策について日野市はすごく熱心に取り組んでいる代表だと思っている。今回の基本計画の改定に当たって、今まで培ってきたいろいろな関係や蓄積を生かして改定にしていったら良いと思う。もう一つ、計画を作ったときに自殺対策が市役所のいろいろな部署にまたがることを確認し合ったと思うので、今回の改定でもう一度振り返って、どのようにやっていったら良いかと皆で考えられたら良いのではないかなと思う。

事務局：委員の任期満了及び改選についてですが、いただいたご意見を調整させていただき、進めさせていただきたい。

委員長：かつての自殺問題というのは貧困問題、病気・健康の問題が中心に考えられてきたが、最近では、日本人全体の意識行動が今大きく変わってきている。貧しくても自分一人で生活ができれば良いと考える人が増えていると思う。一方で、家族や仲間にも死を選ぶ人がいる。この意識の違いも考えていかないといけない。人間というのはプライドを持つ生物だ。何がその人のプライドかは、分かりづらいが、皆自分の人生観に沿ったプライドを持っている。そのプライドが周りから認められなくなった時、あるいは維持できなくなった時、もう死んでもいいという思いを抱く人が今の時代増えてきているのではないかな。そういう心理的な側面を、これからの自殺対策というのは考えていかなければいけないと思う。貧困対策や病気対策は勿論大事で、それが自殺の要因となっていることは間違いないが、それとは別の第三の自殺念慮が生まれやすい時代に生きていると我々は考えていかなければいけない。そういうものを基本計画の中にどうやって盛り込むか大きな問題ではないかな。

5. その他

- ・事務局から、委員改選後、次回の委員会を令和5年1月10日に開催することを提案

《閉会》